

ポラス
ガーデン
ビルズ

庭とリビング一体の「空居間」を実現

建築物部門で流山市景観賞受賞

ポラスグループのポラスガーデンビルズ（千葉県流山市、坂倉利昌社長）の戸建て分譲住宅「空居間（そらいま）の街」が第7回流山市景観賞（建築物部門）を受賞した。

ト流山セントラルパークフラグメンツ（全31棟）で、第6回流山市景観賞（街並み部門）を受賞している。

「空居間（そらいま）」

流山市景観賞は、歴史的・文化的な建築物や街並みなど市の良好な景観を表彰するもので、ポラスグループでは昨年、中央グリーン開発が戸建て分譲住宅「パレットコー

の街流山おおたかの森」は区画整理地に隣接した4棟の分譲住宅で、庭とリビングを一体的にプランニングし、リビングに開放感、庭には居住感をもたせている。4棟の庭や居室に陽光が射すように住宅のポリウムを調整し、ハーフ平屋住宅を

2棟配置して光の通り道を確保することで、空がより高く感じる庭空間と大開口で続くリビング空間との「空居間」を実現した。

審査員の千葉工業大学八馬智教授は、「屋根、塀、ゲート上のフレーム、坪庭、濡れ縁までが周辺と融合している。デザインも多様な間取りが取り入れられており、緑を楽しむ仕掛けが随所に見られる。今後、物件の樹木が成長していくことで、



グッドデザイン賞も受賞している。

今回の受賞をうけて、ポラスグループでは「今後、行政の方針に基づいて、優れた街づくりを行い、良好な景観の形成を進めていく」とした。

同分譲地は、千葉県流山市駒木に位置する全4棟。土地面積135.156平方メートル、建物面積92.98平方メートル。

近隣の諏訪神社の緑との連携が期待できる」と評価した。
同物件は2021年度